



みせん

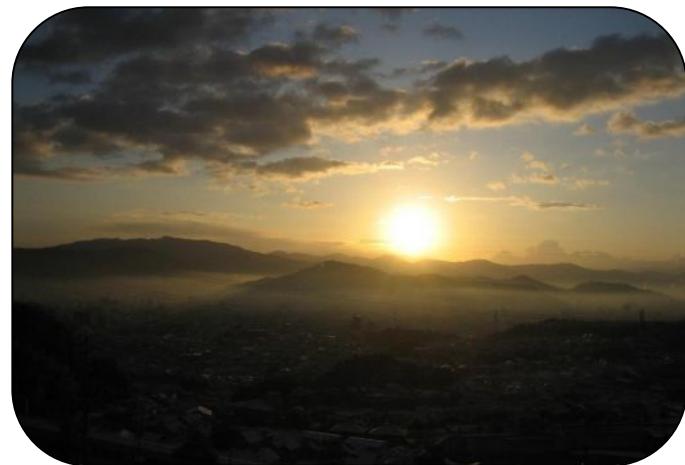
瀬戸内海国立公園
宮島地区パーク
ボランティアの会

第35号 E

発行日
平成21年 3月1日

◇ 目 次 ◇

- | | |
|-------------------|-----------------|
| P2 PV の会臨時総会 | P6 弥山登山道清掃 |
| P3 研修会 藤本 AR あいさつ | P7 宮島年中行事 百手祭 |
| P4 新役員・幹事紹介、あいさつ | P8 大聖院ルート植物調査 |
| P5 武田山観察会 | P9 // 町石調査、編集後記 |



武田山からのご来光

武田山から穏やかな新春を迎えました。

標高 410.9m の武田山の山頂からは太田川がはぐくんだデルタに広がる街並みから瀬戸内海までが眼下に広がっています。

1月 25 日の PV の自主観察会では中世の安芸国の守護「武田氏」の足跡を偲び、史跡の探訪をし、宮島との関係に想いを馳せました。

武田山についての数々の伝説や逸話を掘り起こし、夢とロマンを宮島とともに長く後世に伝えたいものです

(写真・文) 小方 翱彬

4月4日(土)総会

平成 21 年度 PV の会 定期総会を下記要領で開催しますので、会員の皆様、多数ご出席ください

日時 4月 4 日 (土) 10:30~12:00
(受付 10:10~)

場所 杉之浦公民館会議室

- ※ 1、午後からは小なきり浜の清掃活動を実施します
- 2、当日欠席の人は委任状を提出してください

PVの会臨時総会・役員改選

PVの会では昨年12月6日（土）杉之浦公民館に於いて部会打ち合わせ、臨時総会を開催しました。出席会員33名、委任状提出者6名でした。

出席会員 足立 池下 池田 井上 岩崎 大成 小方（嗣）小川 奥田 北野 小林ペア
佐伯 佐藤 渋谷 島 末原 田中 富田 中道 中本 野呂田 平田 佛崎
前田 弁田 松田 丸平 宮崎
環境省 桑原自然保護官 西自然保護官

(1) 部会打ち合わせ

10:30から部会毎に集まり、来年度活動計画の意見交換、幹事の選出を行った。新たに観察部会から小林（勗）さん、環境整備部会から大成さんが選出され、幹事及び監査員は14名の体制となった。

(2) 臨時総会

11:30から臨時総会に移った。まず村上会長「宮島PV設立10周年を迎える」、

自然保護官「対外的に高い評価を受けている」との話があり、3月末で退任する藤本ARより挨拶があった。

ついで議事に入り各部会長から今までの活動状況についての報告があった。

続いて役員改選については総会前の臨時幹事会で互選された原案通り、異議無く承認された。また幹事より、それぞれ抱負を述べた。

「幹事」

観察部会 弁田 祐子（部会長）

小川 加代 小林 勗（新任）中道 勉
村上 光春 横路 晃

環境整備部会 末原義秋（部会長）

大成健太郎（新任）佐藤 庸夫 島千代喜
平田 広三郎

広報部会 足立 清（部会長）岩崎 義一

「役員」会長 村上 光春
副会長 足立 清 末原 義秋
会計 島 千代喜

「監査員」 野呂田 恵子

※役員は全員留任、任期は役員・幹事・監査員とも2年です。

※新役員・幹事あいさつ文はP4～5に掲載
(3)研修会

午後からは同じ会場で 宮島消防署の4名の職員の方を講師に招き環境省主催の研修会、応急手当・救命処置の座学講義と実習を受

藤本AR

講した。全員に「普通救命講習Ⅰ」の受講修了書が交付された。

(4) 年末懇親会

桑原保護官、藤本ARも交え、有志20名あまり、恒例の「山村茶屋」にて牡蠣バーベキューで年忘れの懇親を図った。

（岩崎 義一）



環境整備部会打ち合わせ

応急手当について

普通救命講習では、先ず「応急手当講習テキスト」で応急手当の基礎知識を教わり、心臓や呼吸が止まった人の命が助かる可能性は、その後10分の間に急激に少なくなっていくので、その間、如何に応急手当を施すことが重要な学びました。

次に3班に分れ(1)三角巾による止血法・その他手当て(2)心肺蘇生法(3)AEDの使い方の順に実習しました。

心肺蘇生では各人体モデルを使って気道の確保、呼吸の確認、人工呼吸（口対口）胸骨圧迫（心臓マッサージ）の方法を実地に体験しました。

最近、駅や公民館など公共の場所に AED 設置看板を良く見かけますが、AED の電源を入れると作動手順をアナウンスしてくれるの で、いざという時、使えるような気分になりました。

講師の皆さんには 3 時間に亘り、懇切丁寧に教えていただき、PV の活動時でも万が一このような事態に直面した時、あわてないで冷静に行動できるのではないかと思います。

(富田 和子)



弥山が「百靈峰」に選定

2/4 作家・立松 和平氏の雑誌エッセイ取材に同行し、大聖院住職らとともに弥山の案内登山をしました。全国の百靈峰の一つとして宮島・弥山が取り上げられ 岳人「百靈峰巡礼」
(東京新聞刊) 6月号 (5/15 発行) に記事が掲載されます。

(岩崎 義一)

お世話になりました

藤本 輝男

平成 19 年 1 月中国四国地方環境事務所広島事務所に、アクティブレンジャーとして赴任してからはや 2 年が経過しました。各種調査や行事に 2 年間で 100 回近く参加しましたが、宮島地区パークボランティア (PV) の皆さんと共に活動した回数が一番多かったことになります。

自然観察会や歴史探訪、海岸や汽水池の生き物調査、整備清掃活動など多くの行事で行動を共にさせて頂きましたが、PV の会には植物、動物、地質や歴史・文化など各分野のエキスパートが多く、その層の厚さにも感心させられました。皆さんはすばらしい方ばかりで、楽しく活動されていることは何よりだと思います。活動をとおして多くの事を教えて頂き、また色々とお世話になり本当にありがとうございました。

私は平成 21 年 3 月末をもって、3 年 10 カ月の任期が終了します。アクティブルレンジャーとしての仕事は私にとって仕事そのものが勉強であったと思います。多くの貴重な体験をさせてもらい、充実した日々を送らせてもらいましたが、どれだけ貢献できたかと自問してみると、はなはだ心もとない思いがします。今後は身につけた事を生かして、何か地域に貢献できる事を続けて行きたいと考えています。

最後に宮島地区 PV の会のご発展と、皆様の益々のご活躍をお祈りし、お礼の言葉に代えさせて頂きます。



よろしく 新役員・幹事紹介

会長 村上 光春

多島海の景観・瀬戸内海を舞台に、自然保護の普及啓発を目的とする、パークボランティアの活動と、会員一人ひとりの宮島への想いを、調和させながら、あらためて2年間、会の運営に微力を尽くしたいと思います。

副会長

広報部会長 足立 清

おかげさまでPV設立10周年を迎えます。体力、知力の衰えを気力で補い頑張ります。

副会長

環境整備部会長 末原 義秋

美しい自然と歴史が調和した宮島を保全するために、引き続き公園清掃や環境整備に力を尽くしたいと思います。

会計 島 千代喜

引き続き環境整備部会の幹事と会計をやることになりました。地元の会員として情報収集と会の運営がスムーズにいくようサポートしたいと思います。

監査員 野呂田 恵子

監査は不得手ですが、今期も私なりに頑張ろうと思います。会員のなかには適任の方がたくさんいらっしゃると思いますので、来期は是非手を挙げてください。

観察部会長 弁田 祐子

一つひとつの行事を一生懸命取り組んで行きたいと思っています。不手際の多い私ですが、皆様にご指導いただきながら頑張ります。

幹事 岩崎 義一

引き続き広報部会幹事を務めさせていただきます。従来よりの「みせん」の一層の充実に加え、10周年記念事業など、新たな企画に取り組み、PV活動がより有益なものと

みせん

なるよう努めます。

幹事 大成 健太郎（新任）

この度、環境整備部会の幹事を仰せつかりました。平成19年4月入会以来、余り熱心でなかったので、これを機会に出来るだけ行事に参加します。

環境整備という行動を通じ、宮島の歴史的遺構や歴史的事件の持つ意味をじっくりと見つめていきたいと思います。

幹事 小川 加代

地球の歴史45億年、生命の歴史40億年、人類の歴史500万年。それらは動植物や私たちの体にも刻まれている。宮島で悠久の中の今一瞬を感じられたら、それだけで、幸せではないかと思います。

幹事 小林 翮（新任）

今、宮島は世界遺産登録以降、歴史、文化、自然に対して各方面の分野から注目を浴びています。当会の活動も重要視されることと思います。そのような状況の中で幹事という大役につき果たして出来るかどうか疑問ですが会員の皆様のご協力を頂きながら邁進したいと思います。

幹事 佐藤 康夫

定年退職後、初めての活動が、パークボランティアでした。歴史・植物等々多くの知識を頂きました。皆でやる作業も結構楽しくあつという間の数年でした。まだまだ、知りたいこと・やりたい事いっぱいあります。

元気は人に伝わるといいます。そんな人にな



りたいと思っています。

幹事 中道 勉

会が発足した当時は若手幹事として燃えていたが、いつの間にか岩船登山では長老クラスの仲間に入っています。しかし今年も史跡や掃除など肉体的活動に挑戦します。まだ時間に余裕があるので他行祭事にも誘ってください。

幹事 平田 広三郎

幹事就任を認めていただき有難うございます。環境整備部会の行事を中心に頑張ります。

幹事 横路 晃

幹事2期目です。今年の除夜の鐘が鳴り響く星空と初日の出の美しさは格別でした。変わらぬ自然の美しさと、年毎に異なる生物の営み、それらと人の生活との関わりを考えながら、今後も活動を続けたいと思います。

＜武田山観察会＞

武田氏と宮島のかかわり

日時 1月 25 日(日) 9:00~15:00

参加者 (19名) 岩崎 小方ペア 川崎
北野 小林ペア 佐渡 坂本 末原
田中 富田 中道 野呂田 弁田
丸平 村上 柳瀬 横路

この冬、最も寒い朝となった1/25、武田山はうっすら雪化粧。参加者19名はJR下祇園駅に集合後、山麓の武田山憩いの森に移動。

ここから登山道を右にとり「大倉屋敷跡」から「馬返し」へ、残雪の中、植物観察も交えながら約1時間半、大石や石積みの城壁の



跡が現れ、「御門跡」に至る。

1300年ごろ鎌倉末期の築城の銀山城は安芸守護職・武田氏の居城、近代の城とは違い標高411mの武田山全体が巨大な山城の要塞になっている。「千畳敷」は本丸のあった所、弓矢に使った矢竹や椿が多く植えてある。

頂上には「御守岩台」という大岩があり館跡がある。ここからは太田川方面から光輝く瀬戸内海の絶景が一望でき、まさに格好の統治と軍事の要衝であり、中世日本最大級の山城だったことを実感する。

頂上にて昼食後、小方さんより武田氏と銀山城の300年に及ぶ中世の歴史を学び、また岩崎より宮島と武田氏のかかわりについての解説をする。お宝----金茶釜、埋蔵金の話が出たり興味は尽きない。

帰路は「弓場跡」「観音堂跡」「上高間・下高間」などを見た上、水越峠を経由して下山する。山麓には地元の市民グループの活動拠点となっている公園などが作られていて、活動の熱心さに感心をする。

一旦ここで解散とし、有志メンバーにて武田氏の墓とされているところに向かう。

この難攻不落の城も城主が逃げたのでは毛利の前に敗戦となり、武田氏は滅亡してしまった。滅びたためか伝えられたものは少なく、ロマンを誇うが、武田山史跡は、もっと誇ってよいものだと思う。

宮島の中世の歴史も広くは知られていず、今回の観察会は安芸の国及び瀬戸内海全体との関連において宮島をよく知ることの良い学習になった。

(岩崎 義一)



(6)

みせん

弥山登山道清掃

日 時 12月13日（土）9:00～15:00

参加者 足立 井上 大成 小方ペア川崎

小林ペア佐伯 佐渡 渋谷 末原 田中
富田 中道 中本 平田 平山 前田
舛田 丸平 村上 藤本 AR

ロープウエーのご好意で樂々獅子岩駅に到着した22名は末原部会長指揮の下、紅葉谷分岐を境に2班に分かれ路面の清掃、溝の土砂除去等の作業にかかった。

装備はスコップ4丁、竹箒6本、熊手13本で数日前の雨のせいか土砂も柔らかく、行き交う登山者の挨拶に励まされながら作業は予定通り進み正午までには頂上に到達した。

頂上で昼食後しばし休息を取ったが、周囲には折からの快晴に誘われてか、多くの登山者で溢れていた、我々を含め元気な中高年のグループが目立った。又欧米系の人や中国の若者の団体と国際色豊かだ。

午後大聖院ルートを一団となり下っていくと天下の奇観、幕岩の上、数百㍍に亘って土石流の跡が見えてきた。更に下がっていくと数ヶ所、PVが数年前に築いた土のうがしっかりと残っていた。



登山道清掃作業参加者

半分を過ぎたあたりからスコップはいつの間にか杖代わりになっていたが遅れないようについて行き、6丁辺りの展望台で休息し全員の記念写真を撮った。

白糸の滝の下から大聖院にかけての土石流の復旧工事も平成19年10月に完成していたが大聖院が無傷であったことは奇跡としか言ひようがない。これも偏に弘法大師かはたま

た伊都岐島大明神のご加護のおかげか。一人感慨にふけっている間に大聖院横の広場の清掃も終わり解散となった。

（ 大成 健太郎 ）

おおの自然観察の森

日 時 11月27日 10:00～14:00

参加者 佐伯 中道 文理 舛田 森川

「おおの自然観察の森」センターに10時に集合。最初にセンター内に展示してある文理さん収集の各種鉱石について説明があり、特に顕微鏡で覗く鉱石の妖しくも神秘的美の世界にしばし浸かった。

その後「おむすび岩」をめざし、ベニマンサク湖を出発。すぐに、ベニマンサクの赤い花の残り香を堪能し粘土層の中にひそむ水晶の解説に胸を踊らせ、遊歩道脇のツノハシバミの芽、ヤブコウジの赤い実に、初冬の自然を膚で感じた。

クロモジの林を抜け「おむすび岩」への胸突き八丁、約1時間で標高658mの奇岩に到着した。緑・赤・黄の山なみ、瀬戸内の青、はるかに望む弥山、汗も疲れも吹き飛ぶ絶景に身も心も洗われる思いがした。

眼下に紅葉を見つつ昼食後、鳥帽子岩・船倉山道を経由して下山開始。森川さん舛田さんの植物講義を聞きつつ13時過ぎセンターに帰着。再び紫外線を当てるときらめくタンゲステン鉱などの幻想的な世界に酔いしれた。

来春、花の季節の再来訪を期して14時現地解散となった。（ 佐伯 宣雄 ）



おむすび岩からの展望は圧巻

宮島の年中行事

毎年1月20日

ももてさい 百手祭

中道 勉

この年中行事は、特異な神事と例祭を支援する地域社会の慣習が守られ、現在に引き継がれている。宮島唯一の民俗的行事である。

昔、厳島神社では正月七日千疊閣下の広場で、家族繁栄や無病息災などを祈る「御弓初神事」、また正月二十日大元神社例祭「百手祭」で二百本の矢を射る祭儀があった。

しかし、二つの神事は明治元年(1868)廃仏毀釈の政策を機会に対等合併されたものであるが、弓矢を200本射るには相当な体力を要するために現在は簡素化されている。また約20年前には争いごとを好まない「甲乙なし」という文字が裏書きされたのが置かれ、四本の矢が放たれる。この度は四本も命中し参拝者から鳴りやまぬ拍手が上がった。

この百手祭に関わる地元の滝町の住民は、野菜や魚類を煮炊きした煮染、なます、たくあん、大豆、青海苔、御飯など

「餽飯」と呼ばれる特別な食事を調理する。餽飯は栄養バランスに優れた戦国時代の兵糧食、又は野戦料理とも云われている。更に餽飯の一部は神様に献上する「神饌」として春日台に盛り付けられているが、現在のような生物でなく「熟饌」なのである。

祭典後、神棚から御神酒や神饌が下ろされると配膳された餽飯と一緒に戴くための酒宴(直会)が開かれる。つまり神官や関係者は神様と同一のものを戴くことができることに感謝するのである。なお最近は諸種の事情で一般の参拝者

は抽選に当たった数名の方のみが招待されている。

なぜ滝町地区の住民なのか。大元神社は厳島神社が創建される前から存在し、地主の神と崇められ最も重要なものであった。この大元神社の例祭は、平安時代から朝廷での政務や儀式を代理する上卿職に任命されていた滝町に住む「林家」が担当していた。その祭典に必要な神饌や直会の料理については、隣近所の方々が奉仕活動を申し出たことが今日まで引き継がれている。



「みせん」 次号発行予定

発行日	6月1日
原稿締切	4月末日

—復旧後の— 大聖院登山道 町石・植物 の調査

台風土石流災害から 3 年ぶりに昨年 10 月大聖院ルート登山道が復旧、開通しました。

これに伴い「宮島弥山原始林の植物」（平成 14 年発行）及び「弥山町石めぐり」（同 18 年発行）の見直しをするため、2 月 11 日（祝）植物班と町石班に分れ一斉調査を行いました。

(参加者) 植物班 足立 小方（嗣）小川 奥田 北野 小林（み）末原 野呂田 弁田
 丸平 村上 横路 六重部 藤本 AR (14 名)
町石班 岩崎 川崎 小林（観）佐伯 佐藤 富田 中道 (7 名)

(植物調査)

弥山原始林の中央に位置する大聖院ルートの新しい河床と護岸整備を目の当たりにして、改めて自然の力に怖れを感じました。下流 2 号砂防堰堤、上流 1 号砂防堰堤あたりの倒木やむき出しの岩肌が、再び豊かな自然に回復するのにどのくらいの年月が必要なのでしょう。忙しそうに啄むメジロや鳥の声に癒されながら、痛々しい裸地が早く緑に変わることを願った一日でした。

◎マップに表示されていてその場に見つからなかった樹木を報告します。

2 号堰堤あたり・・サカキカラ・イヌビワ・ムクノキ・ムラサキシキブ

1 号堰堤あたり・・アカガシ・ネジキ・ハイノキ・ウリカエデ・ウリハダカエデ・カラスザンショウ (弁田 祐子)

されたかしており、新たな発見はできない。

明治 2 丁は 被災直後引き上げ、登山道に横たえたままにしてある。元の設置位置は現在より 18m 上部であった。



植物調査参加者

登山道は 2 号堰堤の設置のため、僅かに山側に移動し、距離が長くなっている。

また滝不動堂は崩壊、白糸橋は約 20m 上流に新設、滝宮神社は現在 再建のため基礎工事に入っている。

②白糸の滝

滝下の巨石が崩落し滝そのものが以前より雄大に見える。滝宮神社は崩壊したが高倉上皇御幸石から見える滝は 800 年前の姿に戻ったようである。

③3 丁～里見茶屋跡展望台～中堂跡～賽河原

この間は旧のまま、災害の被害はない。

④幕岩から太夫戻岩

賽河原を過ぎ幕岩が見え出す所 12 丁手前から旧登山道は白糸川下に崩れ落ち、それに代わって新道の階段が山手西側に 120m 取り付けられている。

13 丁町石は無事存在し、約 100m の旧道はそのままである。

(町石調査)

土石流災害により町石 7 基が被害に遭い (内 2 基はその後回復) 上流 1 号堰堤付近は大幅に登山道が付け替えられ、遊女石畳も移設されている。

◎調査区間

A 区間・〔下流 2 号堰堤〕 大聖院階段下起
 点より 3 丁・白糸の滝まで

B 区間・〔上流 1 号堰堤〕 12 丁から 17 丁
 及び遊女石畠

◎調査内容

①起点から白糸滝

失われた町石〔明治 1 丁・元文 1 丁・江戸町石〕の元の位置を確定をする。

新たな登山道は 土砂の堆積の上にできており、町石や仏像は埋まっているか、川に流

幕岩は大きく表土を削られ、以前より巨大に見える。まだマサ土が残っており、土石流発生の地点である駒が林下には巨石が散在し、再びの災害の恐れを感じる。

⑤1号堰堤から遊女石畳

太夫戻し岩から先は再び崩落し、駒ヶ林下からの土石流の直撃で失われている。

14丁町石は工事関係者の手で発見され、再建されている。続い

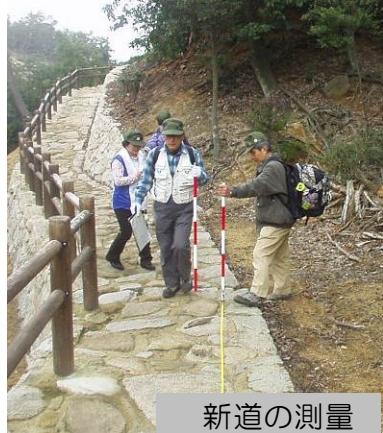
て遊女石畠が移設されているが、以前は歴史の風格を感じさせる石組みのギッシリと美しい石畠であったのに対し、今はコンクリートに囲まれた石道となり、復元と言うには程遠い憐れな姿である。

15丁は移動し立て直されている。復元遊女石畠は93メートル。川を再び渡る所に遊女の奉寄附石碑が2基、これも立て直されている。

かつての旧登山道は 石畠を剥がされ、下に約100メートル降り、堰堤のところで土石流の現場に至っている。途中には 満願地蔵尊と白鬚大明神の社が残されている。

はたして遊女石畠は 全面剥がして移設したが、今後被害を受ける可能性の低い上半分の50m程は以前のまま残しておく方が良かったのではないかと少なからず残念に思う。

此処より仁王門分岐までは 被災していない元の道のままである。



新道の測量



町石調査の参加者

◎登山道の改修による変化

今回の測量による登山道の長さは

起点石碑～3丁 旧322m→新383m

B区間の新道1—120m 新道2—201m

遊女石畠（復元移設）旧101m→新93m

起点～仁王門18丁 旧1,895m→新1,988m

起点～弥山山頂 旧2,525m→新2,618m

測量結果の詳細・町石の現状については纏めて「弥山町石めぐり」改訂版を発行（6月）予定です。（ 岩崎 義一 ）

エコ・ウォーク in 宮島

(RCC主催 宮島地区PVの会協力)

昨年11月24日雨天中止となりましたが
3月14日（土）同じ内容で開催します。

一般受付8:30から 集合場所 宮島桟橋

◇編集後記◇

▼昨年宮島に渡った観光客が343万人、過去最高となったようだが、PVの地道な活動も来島者増に大いに貢献しているものと確信する。最近パークボランティアの話をするとき、「あの宮島でボランティア活動している」と理解している一般の人が増えてきた。10年の活動実績は着実に宮島に根付いているようだ。（足立）

瀬戸内海国立公園

宮島地区パークボランティアの会

事務局 環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号

広島合同庁舎3号館1階

TEL(082)223-7450・FAX(082)211-0455

宮島詰所

(〒739-0505)廿日市市宮島町1162-18

(宮島桟橋2F)